

清須市市制20周年記念

清須市 昭和モノクロ 写真集



©バード・スタジオ

はじめに

清須市は令和7年7月7日に市制20周年を迎えました。

昭和100年にもあたるこの年、まちの記憶を紡いでいく契機とするため、

「清須市昭和モノクロ写真展」を開催しました。

市内で撮影された昭和期のモノクロ写真から厳選50枚を展示したこの写真展。

本写真集は、その全50枚を収録したものです。

現在の風景と比べながら、そして写真の中に息づく人々の暮らしに

思いを馳せながら、ご覧いただければ幸いです。

清須市

目次

はじめに……………1	清須市昭和モノクロ写真展……2	写真展アンケート投票結果……3
公共的な建物……………4	くらし・災害・催し……………22	風景……………38

市制20周年事業 清須市昭和モノクロ写真展

写真展をご覧の皆さんからの感想

自宅側の昔の写真を拝見でき、
今との違いに見入ってしまいました。

今では想像できない環境が知れて、
本当に見に来てよかったです。

今の風景と比べることができ、
歴史を感じた。清須の歴史を含め
より親しみを持つようになりました。

祖父が写っている写真に
投票しました！

今の風景を一層大切にしたいと
思いました。



清須市立図書館
7/9～7/27



カルチバ新川
7/30～8/17



清洲市民センター
8/20～9/7



にしびさわやかプラザ
9/10～9/28

写真展アンケート投票結果

写真展にご来場いただいた皆さんに、
お気に入りの写真へ投票していただきました。

総投票数 1325 票



No.011 新川小学校の交通安全教室 91票 P.15



No.003 旧清洲町役場

67票 P.7



No.014 清洲小学校の風景 62票 P.18



No.005 庄内川の鉄橋を渡る旧国鉄の
蒸気機関車 44票 P.9



No.012 名鉄 新清洲駅 55票 P.16



No.041 学童通学用陸橋 44票 P.47



No.002 旧国鉄 枇杷島駅 52票 P.6



No.042 大久保牧場 44票 P.48



No.001 旧新川町役場 46票 P.5



No.050 清洲公園 44票 P.56



No.009 西枇杷島小学校の旧校舎・集会風景 45票 P.13

公共的な建物

— 建物が語る まちの記憶 —

まちの発展とともに、人々の暮らしを支えた公共建築。

それらは、地域の「よりどころ」であり、時代の「象徴」でもありました。

これらの象徴はいま、どのように変わったのでしょうか。

市制20周年を契機として、

変貌を遂げ続けている現在の清須市とともに、

昭和の「まちの記憶」に想いを巡らせていただければ幸いです。

公共的な施設
No.001

旧新川町役場 [昭和13年頃撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。

新川町の誕生は、明治39年(1906)。当初の役場は、現在の新川小学校の校庭あたりにあった。
昭和13年(1938)に道を挟んだ北側に新築した建物が写真の庁舎。
昭和61年(1986)に建て替えられた庁舎が現在の市役所南館。



清須市須ヶ口1238番地

公共的な施設
No.002

旧国鉄 枇杷島駅 [昭和18年撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



明治5年(1872)、新橋～横浜間の開業を皮切りに鉄道の敷設が始まる。この地域では、明治19年(1886)4月に、熱田・清洲間の旧国鉄東海道本線が開業した。

枇杷島駅は、明治39年(1906)の清洲駅廃止に伴い開設された。現在の駅は平成20年(2008)頃に整備された。



西枇杷島町七畝割108番地13

公共的な施設
No.003

旧清洲町役場 [昭和20年頃撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



明治22年(1889)、清洲村から清洲町となった。明治41年(1908)に五条川東側の美濃路沿いに木造の役場庁舎が建てられた。その後、昭和9年(1934)に建て替えられ、昭和46年(1971)に現在の五条川防災センター敷地に役場庁舎を新築した。



清洲1646番地付近

公共的な施設
No.004

春日小学校の旧校舎 [撮影時期不明 戦前と思われる]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。

明治41年(1908)4月、現在地に西部高等小学校校舎を買入し、
下之郷・落合両小学校校舎を移築してできた木造校舎。
その後増改築や校地の拡張が行われたが、老朽化により昭和44年
(1969)10月に鉄筋三階建の校舎を新築した。



春日振形131番地

公共的な施設
No.005



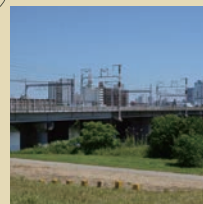
庄内川の鉄橋を渡る旧国鉄の蒸気機関車 [昭和20年代後半撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。

昭和31年(1956)に東海道本線が全線電化完了するまで、蒸気機関車が活躍した。

この地域は、昭和28年(1953)11月に名古屋・稲沢間が電化した。この写真では、電気を送電する架線が設けられ電化が進んでいることがわかる。



西枇杷島町南六軒5番地付近

公共的な施設
No.006

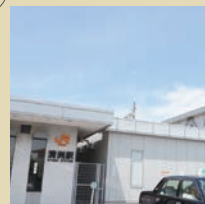
旧国鉄 清洲駅 [昭和30年代撮影]



明治19年(1886)に現在地より1kmほど南に開設されたが、稲沢駅と枇杷島駅が新設され、明治39年(1906)に廃止された。しかし、近隣住民による熱心な復活運動が続き、昭和9年(1934)、清洲駅が現在地に設けられた。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



稲沢市駅前一丁目9番地1

公共的な施設
No.007

下之郷南部出荷組合 [昭和30年代撮影]



春日地区南部の下之切と呼ばれる、昔から農業が盛んであった地区の農産物出荷場。写真の道は「灰取街道」で遅くとも戦国時代には整備され、清洲と小牧を結んでいた。

写真のリヤカーや自転車、服装などが時代を感じさせる。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



春日天神161番地付近

公共的な施設
No.008

旧春日村役場 [昭和34年撮影]



明治41年(1908)、役場庁舎は春日小学校校庭西側の五条川堤防上に建てられた。その後、昭和22年(1947)に春日振形に春日村農業会(後の農業協同組合)との合同庁舎として新築。
写真は『春日村史』刊行時に撮影された。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



春日振形129番地付近

公共的な施設
No.009

西枇杷島小学校の旧校舎・集会風景 [昭和35～36年頃撮影]

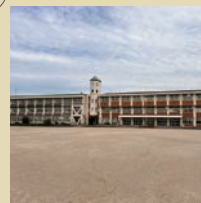


実際の当時の色味とは異なる場合があります。



昭和30年代半ば頃の校舎と全校朝礼の様子。正面の木造校舎は大正3年(1914)竣工の建物。

その後、鉄筋二階建て校舎(現北側校舎)が昭和33年(1958)に、木造校舎北隣りに鉄筋三階建て校舎(現南側校舎)が昭和37年(1962)に竣工し、この木造校舎は取り壊された。



西枇杷島町住吉1番地

公共的な施設
No.010

旧西枇杷島町役場 [昭和39年撮影]



明治22年(1889)に西枇杷島町が誕生した当初、庁舎は橋詰町に置かれ、明治27年(1894)に庄内川の中島内へ、昭和20年(1945)に現在の西枇杷島児童センター付近に移転した。

写真はその時の庁舎で、その後、昭和46年(1971)に旧西枇杷島庁舎へ移転した。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



砂入ちびっこ広場(西枇杷島町砂入地内)

公共的な施設
No.011

新川小学校の交通安全教室 [昭和40年撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



昭和40年(1965)9月8日、新川小学校校庭で全校児童を対象に開催。西枇杷島警察署署員の指導で、交通ルールの遵守や横断歩道の渡り方等の訓練が行われた。

新川小学校の記録では、昭和36年(1961)5月が交通安全教室の初回となっている。



須ヶ口1239番地

公共的な施設
No.012

名鉄 新清洲駅 [昭和40年代撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



大正3年(1914)に開設された清洲線終点が清洲駅であったため、当初の名称は「西清洲駅」。

昭和3年(1928)に丸ノ内から国府宮を通り一宮へ向かう今の路線ができた。その後昭和23年(1948)に清洲線が廃止され、新清洲駅と改称した。



新清洲一丁目1番地1

公共的な施設
No.013

名鉄 須ヶ口駅(豊和工業(株)側)の通勤風景 [昭和40年代撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



現在の駅舎が昭和62年(1987)12月に完成するまで、豊和工業(株)側に従業員専用の改札口が設けられていた。
この改札が利用できるのは朝・夕の通勤時間帯のみで、駅の北側に位置する豊和工業(株)の従業員は直接利用することができた。



須ヶ口1725番地

公共的な施設
No.014

清洲小学校の風景 [昭和43年撮影]



木造校舎と鉄筋校舎。右側の木造二階建て校舎は昭和13年(1938)8月に新築され、昭和48年(1973)6月に取り壊された。鉄筋校舎は昭和30年(1955)12月に三階建て校舎として竣工した。子どもたちの体操着が時代を感じさせる。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



清洲1013番地

公共的な施設
No.015

名鉄 須ヶ口駅(正面) [昭和44年撮影]



名古屋電気鉄道津島線の駅として、大正3年(1914)1月23日に開設された。

写真の駅舎は、昭和25年(1950)に増改築されたもので、昭和63年(1988)に6階建ての駅ビルに建て替えられるまで使われた。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



須ヶ口1725番地

公共的な施設
No.016

西枇杷島小学校での父親参観 初開催 [昭和44年撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



西枇杷島小学校で父親が授業を参観して子どもたちに熱い視線を送り、子どもたちは姿勢よく緊張気味の様子が伝わってくる。
翌年7月に父親学級という名称になり、昭和55年(1980)11月には
両親学級と改称している。



西枇杷島町住吉1番地

公共的な施設
No.017

名鉄 ニツ杵駅 [昭和50年代撮影]

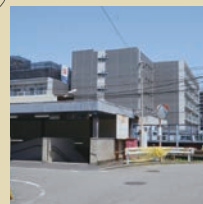


昭和17年(1942)に誕生。プラットホームが狭く、列車停車本数の少ない駅だったが、昭和62年(1987)にプラットホーム拡張と下りの駅舎が開設され、停車数が倍増した。

写真の踏切は廃止され、歩行者専用地下道が整備された。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



西枇杷島町芳野二丁目59番地

くらし・災害・催し

—色づく日常 つながる記憶—

活気あふれる商店街や、お祭りのにぎわい。

突然訪れる自然の猛威と、災害に立ち向かう人々。

ここからは、こうした人々の暮らしが

映し出されている写真を紹介します。

今回AIが色を吹き込んだ当時の暮らしを垣間見るなかで、

時代を超えてなお惹かれるものを

ぜひ探してみてください。

くらし・災害・催し

No.018

宮重大根原種採取室(春日地内) [昭和3年撮影]



宮重大根は、現在の大根の主流である青首大根の原種とされ、発祥地は春日地区。

大変美味で尾張藩主や將軍家にも献上された。写真は、明治40年(1907)から春日村農会が運営した大根の種子の採取室。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



撮影地不明



春日地内(詳細不明)

くらし・災害・催し

No.019

国防訓練査閲(新川小学校) [昭和18年撮影]



昭和12年(1937)の日中戦争の開戦後は、戦時体制へと突き進んだ。
写真は竹槍を手にした女性が多数みられることから、婦人会訓練の
検査と考えられる。

場所は新川小学校校庭。中央奥は奉安殿で、校舎の後ろは新川町役場。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



須ヶ口1239番地

くらし・災害・催し
No.020

西枇杷島まつりの山車とアメリカ進駐軍 [昭和21年撮影]



終戦の翌年(1946)、問屋町頼朝車、東六軒町泰亨車、西六軒町紅塵車、杵西町頼光車の四輦で西枇杷島まつりが復活。
GHQの兵士が山車を見物している。当時、名鉄二ツ杵駅近辺にGHQの兵舎があり、ジープで走り回る姿が見受けられた。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



西枇杷島町橋詰地内

くらし・災害・催し
No.021

第1回新川町盆踊り大会 [昭和26年撮影]



AIによる
カラー復刻



実際の当時の色味とは異なる場合があります。

昭和26年(1951)8月15日に新川小学校運動場で開催。7月に発表された新川音頭が、小学校児童、中学校生徒、青年団、婦人会、町民有志によって踊られた。娯楽が少なく戦後の混乱が残る中、地域の人々の貴重なレクリエーションとなった。

現在

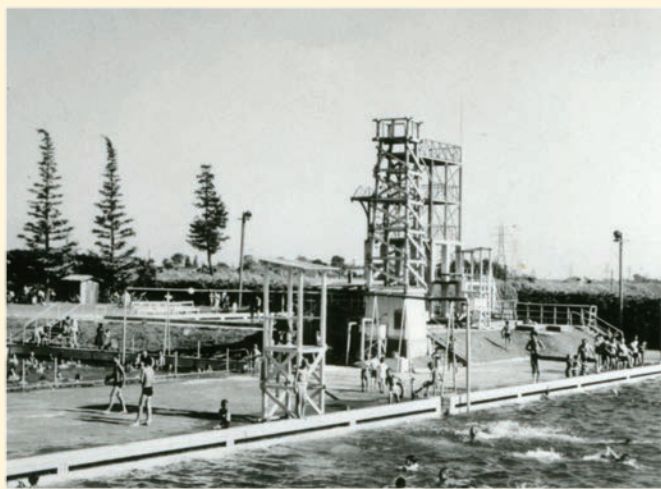


須ヶ口1239番地

くらし・災害・催し

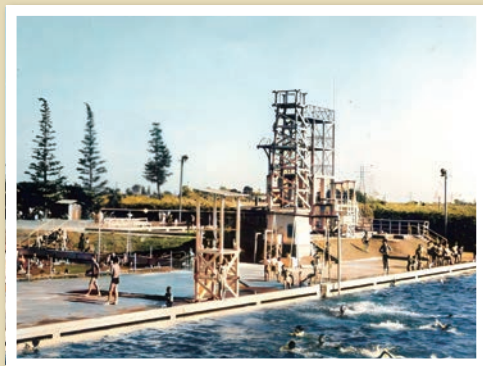
No.022

清洲プール(現新清洲保育園の付近) [昭和30年代撮影]



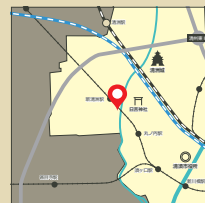
昭和4年(1929)に完成。25メートルと50メートルのコースや、高さ10メートルの飛び込み台をもつ国内有数のプールで、ベルリンオリンピック金メダリスト前畑秀子選手などが練習に利用した。戦後10年間は進駐軍に接収されていた。

AIによる
カラー復刻



実際の当時の色味とは異なる場合があります。

現在

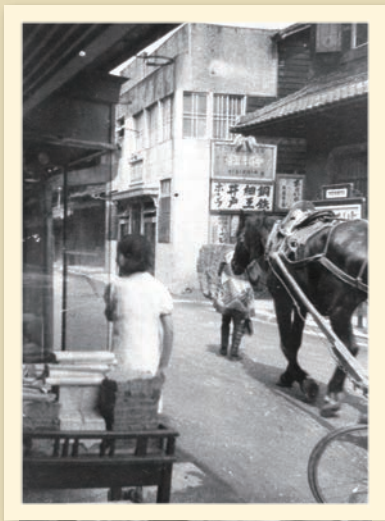


新清洲三丁目3番地付近

くらし・災害・催し

No.023

美濃街道(西枇杷島地内) [昭和30年代撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



西枇杷島町南六軒18番地付近

江戸時代の初頭に「下小田井の市」が開かれてから昭和30年(1955)頃まで、この地域の商業の中心地として賑わった。

左側の手前の店先が書店、奥の建物は「ひょうたん湯」と呼ばれた銭湯。馬は昭和30年頃まで輸送手段として活躍した。

くらし・災害・催し
No.024

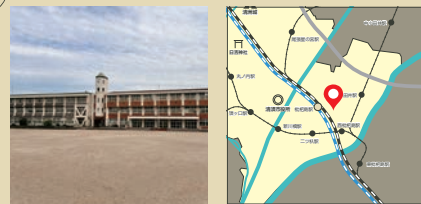
伊勢湾台風で被災した西枇杷島小学校 [昭和34年撮影]



昭和34年(1959)9月26日の伊勢湾台風で木造校舎が大きな被害を受けた。その他、学校プール更衣室・機械室の屋根等も被害を受けた。西枇杷島地区では、重軽傷者55人、家屋全壊16軒、同半壊158軒、床下浸水215軒等の被害が発生した。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



西枇杷島町住吉1番地

くらし・災害・催し
No.025

伊勢湾台風被災者の受け入れ [昭和34年撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。

伊勢湾台風は大きな被害をもたらした。新川中学校講堂では、被害の大きかった飛島村や十四山村・弥富町から最大127人の避難者を受け入れた。受け入れは昭和34年(1959)10月3日から3か月に及び、年が変わる頃にやっと帰郷できたという。



須ヶ口750番地

くらし・災害・催し

No.026

名鉄 須ヶ口駅構内の浸水 [昭和36年撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



昭和36年(1961)6月24日～27日にかけて停滞した梅雨前線による大雨で、県下で浸水家屋が8万戸を超える被害が出た。堤防決壊は免れたものの、須ヶ口駅構内も浸水。これを機に、西枇杷島町と新川町は昭和40年(1965)に二ツ杵排水ポンプ場を建設した。



須ヶ口2126番地付近

くらし・災害・催し
No.027

新川町第1回産業祭のパレード [昭和39年撮影]



昭和37年(1962)に始まった商工祭が、新川町産業祭として町を挙げての行事となった。新川小鼓笛隊の行進や仮装行列、郷土物産展示会などが行われた。

2年後に新川まつりと名を変え、平成14年(2002)に新川やると祭となった。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



須ヶ口駅前二丁目21番地付近

くらし・災害・催し

No.028

東京オリンピック聖火リレー [昭和39年撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



アジア初となる東京オリンピックの開催で聖火リレーが全国各地で行われた。愛知県には昭和39年(1964)10月2日午後2時頃聖火が到着。清須市は旧国道22号がコースで、沿道に詰めかけた人々が聖火ランナーに声援を送った。



春日西余部・宮重地内

くらし・災害・催し

No.029

西枇杷島まつり 頼光車 [昭和40年代撮影]



西枇杷島まつりの山車は、「下小田井の市」の旦那衆により享和2年(1802)に誕生した。昭和46年(1971)から今日のような町を挙げてのイベントとなった。

この写真の山車は杵西町頼光車で、明治4年(1871)に製作されている。

AIによる
カラー復刻



実際の当時の色味とは異なる場合があります。

現在



西枇杷島町美濃路付近

くらし・災害・催し

No.030

清洲花火の山車(五条橋付近) [昭和40年代撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。

清洲牛頭(ごす)天王(てんのう)社(現川上神社)の例祭では、天王祭りの車楽(山車)を二艘の舟に仕組み五条川に浮かべて花火が打ち上げられ、多くの見物客が詰めかけた。写真の頃には車楽は川に浮かべず両岸に置かれるようになっていた。



五条橋西側付近

くらし・災害・催し

No.031

新川橋左岸から見た美濃路 [昭和40年代撮影]



美濃路と新川橋の左岸堤防が交差している場所。
新川橋を中心に、新川の両側に食料品店や衣料品店、喫茶店など多くの商店が軒を連ねていたが、河川改修工事などで徐々に姿を消していった。

A-1による
カラー復刻



実際の当時の色味とは異なる場合があります。

現在



土器野355番地付近

くらし・災害・催し

No.032

大災予防パレード [昭和40年代撮影]



秋の火災予防パレードの様子。美濃路を文造寺の交差点から西に向かって行進し、新川橋にさしかかる。

昭和23年(1948)に自治体消防制度が発足し、新川町消防団が設立され、現在の清須市消防団へと引き継がれた。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



土器野360番地付近

風景

—記憶をのせた道 あの頃と今—

清須市になる前の風景を、少しのぞいてみましょう。

昭和の時代は、道や橋など、
暮らしを支えるインフラ整備が進んだ時代でもありました。
より便利になったもの、なくなったもの、変わらず残るもの。

風景の中にある変化にご注目ください。

あなたのお気に入りの一枚が見つかり、
それがあなたと昭和をつなぐ「架け橋」になることを願います。

風景
No.033

枇杷島小橋渡し初め式 [昭和2年撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



枇杷島橋は中島を用いて二橋で架橋された。名古屋側と中島を結ぶ橋が枇杷島大橋、西枇杷島と中島を結ぶ橋が枇杷島小橋。
大正14年(1925)に洪水で枇杷島小橋が落橋し架け替えられた。
奥の鉄橋が枇杷島大橋で、右側は中島の家並み。



西枇杷島町橋詰地内

風景
No.034

中島からの西枇杷島遠望 [昭和9年撮影]



中島は庄内川に作られた人口の島。江戸時代は遊興地として、明治時代以降は島内に郡役所や西枇杷島町役場、公会堂などが置かれた。写真は中島から右岸を望む。右側の森は橋詰神社、川べりの建物は橋詰派出所。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



西枇杷島町橋詰地内

風景
No.035

問屋の風景 [昭和11年撮影]



江戸時代初頭から「日本三大青物市場」として栄えた「下小田井の市」は、様々な産物を全国から集荷し、昭和30年(1955)に西区へ移転するまで全国でも有数の市場だった。

現在の北部市場(西春日井郡豊山町)のルーツ。

A-1による
カラー復刻



実際の当時の色味とは異なる場合があります。

現在



西枇杷島町問屋地内

風景
No.036

新川大橋の北側(キンビール名古屋工場方面) [昭和11年頃撮影]



旧国道22号(現県道名古屋祖父江線)の新川大橋北のたもとの景色。
昭和30年(1955)頃までは写真のような田畑の広がる光景が見られたが、高度経済成長に伴い都市化が進み、民家や店舗・工場などが建ち並ぶ光景へと変わっていった。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



新川大橋北交差点付近

風景
No.037

新川の舟運 [昭和23年頃撮影]



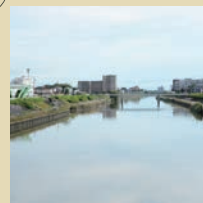
江戸時代から舟運が盛んで、新川橋のほとりに問屋や船着き場があった。昭和5年(1930)には、新川町内の荷揚げ場は10か所あり、石炭・藁・木炭・瓦・農産物・味噌・木材などが揚げ下ろしされ、年間約800隻の船が出入りしていた。

A-1による
カラー復刻



実際の当時の色味とは異なる場合があります。

現在



新川橋下流付近

風景
No.038

船舩橋渡り初め式 [昭和28年撮影]



前年の五条川増水で一部が陥落したため、災害復旧工事がなされ竣工式が執り行われた。当時の木造土橋の様子が伺われる貴重な写真。

昭和38年(1963)にコンクリート製の橋に架け替えられ、令和2年(2020)に現在の橋となった。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



清洲1488番地付近

風景
No.039

蓮花寺橋 [昭和30年代撮影]



昭和33年(1958)にそれまでの木橋が老朽化したため架け替えられ、幅が広がったことでリヤカーが通れるようになった。この橋の西側の坂を下った先に馬車屋があったという。
この後、昭和63年(1988)に現在の橋となった。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



蓮花寺橋西側

風景
No.040

祢宜家バス停 [昭和30年代撮影]



旧国道22号線の一宮方面を撮影。「祢宜家」バス停は後に「豊田合成前」となり、豊田合成(株)で働く人々の貴重な足となった。
当初、名鉄バスセンターと一宮バスセンターを結んでいたが、平成10年(1998)4月6日に廃止された。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



春日長畑地内

風景
No.041

学童通学用陸橋 [昭和34年撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



西枇杷島町住吉2番地付近

県道名古屋祖父江線(旧国道22号線)は交通量が激しく、登下校の児童の横断が大変危険だったため、鉄道の跨線橋を参考に日本初の横断歩道橋が架けられた。

平成22年(2010)、道路拡幅に伴い新たな横断歩道橋に架け替えられた。

風景
No.042

大久保牧場 [昭和35年頃撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



春日における酪農の歴史は、昭和26年(1951)に岩手県から仔牛を導入したことに始まる。

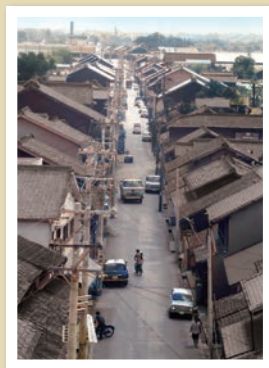
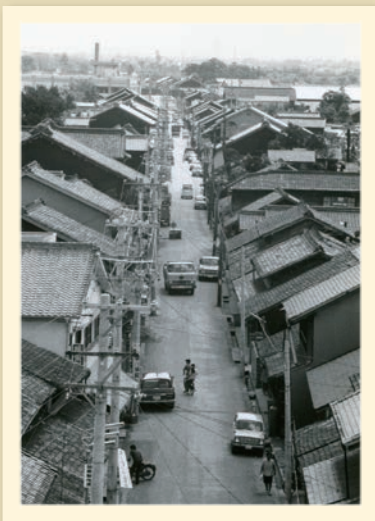
その後、ニシキ乳業の元社長、大久保泰五郎氏の推奨によりホルスタインの飼育が始まり、大久保氏の牧場が蓮花寺山に作られた。



春日公民館付近 (春日東出8番地2)

風景
No.043

旧清洲町役場に隣接する火の見櫓から美濃街道を望む [昭和41年頃撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。

上本町にあった旧清洲町役場の火の見櫓から南方面の美濃路を撮影した写真。五条川拡幅工事前で古い町並みがみられる。
遠方左手の鉄筋コンクリートの建物は、昭和39年(1964)に出来た新川清洲電話局と思われる。



清洲1646番地付近

風景
No.044

電電公社の電話ボックス [昭和42年頃撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。

上本町の旧清洲町役場前にあった、今は懐かしい電話ボックスの写真。
昭和39年(1964)9月20日、新川清洲電報電話局が開局した。
当時の市外局番は「0560」で、この開局以降電話番号は現在と同じ
10桁となった。



清洲1646番地付近

風景
No.045

新川大橋から西枇杷島方面を望む [昭和40年代撮影]



新川大橋は、昭和11年(1936)に旧国道22号の橋として架けられ、昭和51年(1976)頃に現在の橋となった。
写真奥の陸橋(跨線橋)は、名鉄線をまたぐため昭和10年(1935)に築造された。現在、架け替え工事中。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



新川大橋南側(西枇杷島町地領地内)

風景
No.046

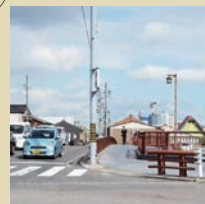
新川橋 [昭和40年代撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



美濃路が国道であった大正2年(1913)に永久橋として架け替えられた。写真の橋は昭和13年(1938)に架け替えられたもので、その欄干が新川右岸のポケットパークに遺されている。
現在の橋は平成14年(2002)に完成した。



新川橋東側(カメラ位置:西側)

風景
No.047

清洲地内の美濃路 [昭和40年代撮影]



防犯パレードの車が五条橋の東岸南方向にのびる美濃路を進む。ニシキ牛乳の電柱広告や商店の雰囲気、車の仕様が時代を感じさせる。五条川の川幅拡張工事によりほとんどの建物は移転され、今では当時の風情は失われている。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



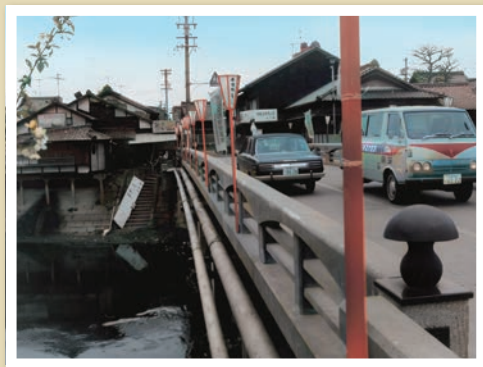
清洲地内

風景
No.048

五条橋 [昭和40年代撮影]



五条橋は、清須越により名古屋の堀川に架かる橋となったことはよく知られている。清須越後も何度も架け替えられた。
写真は昭和41年(1966)に完成した橋。この後、河川改修に伴う拡幅工事により平成8年(1996)に現在の橋となった。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



五条橋東側(カメラ位置:西側)

風景
No.049

武藤書店前・五条橋右岸 [昭和40～50年頃撮影]



風景や人々の服装などから、昭和40年代と考えられる。現在の武藤書店周辺の風景。
この通りは美濃路にもあたり、旧清洲町のメインストリートであった。自転車に乗った女性が集まり当時の賑わいが感じられる一枚。



実際の当時の色味とは異なる場合があります。



五条橋西側

風景
No.050

清洲公園 [昭和50年前後撮影]



実際の当時の色味とは異なる場合があります。

清須越以降、江戸時代は尾張藩が清洲城跡として保存した。
大正6年(1917)、県知事が秀吉生誕地中村、信長本拠地清洲、家康生誕地岡崎を史跡公園として保存整備することを企図し、地元の熱心な要望も受けて大正11年(1922)に清洲公園が誕生した。



清洲公園内

発 行 清須市

編 集 清須市企画部

協 力 清須市教育委員会

発行日 令和7年11月3日



清須市
KIYOSU